

去る2月26日の朝、いつものようにマーケット・ウォッチ(Market Watch.com)のサイトを見たら、普段なら経済アナリストの写真やコメント、ニューヨーク株式市場のグラフや国際時事情報がひしめく画面に見慣れない写真があった。プラカードのようなものを持った一人のおじさんの小さな画像である。一瞬、「ニューヨークのホームレスの話題？」かと思いきや、良く見るとそれには「Where is our money? / 私たちのお金はどこ？」と書かれており、何とそれはインターネット上の仮想通貨「ビットコイン」85万BTC(約500億円)が消失したニュースであることがようやく分かった。しかも発信源は東京に拠点を置く同通貨大手仲介会社「マウント・ゴックス」というから、“プラカードのおじさん”の写真はニューヨークではなく東京でのものであることも分かり2度ビックリである。

さらにその後、同通貨の考案者「サトシ・ナカモト」なる謎の日系人まで登場し、話はますます大きくなったが、一番の話題はこの問題が“良く分からない”ことである。安い手数料で自由に国境を越えてお金の決済が出来るビットコインは、便利で人気のいっぽうで取り締まる法律がないに等しく、以前から犯罪組織によるマネーロンダリングの温床であることが指摘されてきた。セキュリティの脆弱さからハッキングされる噂もあった。現段階では一体誰が被害者なのかさえ分からない。さらに良く分からないのは斯様な事態にもかかわらず“ビットコイン規制論”があまり出てこないことだ。恐らくそれは、1USドル程度の同コインの価値がピーク時には900USDドルにまで暴騰するという投機性の高さからではないだろうか。儲かりさえすれば多少のリスクは無視しようという分けか。これら一連の騒動を見ると、

「富を得ようと苦労してはならない。自分の悟りによって、これをやめよ。あなたがこれに目を留めると、それはもうないではないか。富は必ず翼をつけて、わしのように天へ飛んで行く。」箴言 23 章 4-5 節

と語る、聖書の言葉は正に言い得て妙である。何を隠そうこの言葉を書いたのは3000年前に世界一の金持ちだったソロモンである。世界中から美女をかき集め、ゴールドを溶かして巨大神殿を飾り、100m以上あるスギの巨木を雑草の様に切り倒しまくり巨大工事に使った男だ。そして彼は気付いた。金は無くなるものであり、無くならないものを真理ということを。

